

第29回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成23年10月27日（木）19時00分から21時00分
- 2 開催場所 新ごみ処理施設建設工事現場事務所 1階 会議室
- 3 委員出欠 出席11人
出席委員 大江宏(会長)、河本美代子、小林隆志、小林義明、佐藤壽、田中茂利、寺嶋均（副会長）、時津直子、中澄子、増田雅則、松井和夫
- 4 出席者
事務局 浜三昭、内藤和男、澤田忍、荻原正樹、佐藤昌一、奥山尚、飯泉研、田中實、深井恭、飯高秀男、高畑智一
J F Eエンジニアリング株式会社
パシフィックコンサルタンツ株式会社
- 5 傍聴者 1人

【議事次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - (1) 第28回市民検討会議事録の確認
 - (2) 第16回ふじみ衛生組合地元協議会について
 - (3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について
- 4 協議事項
環境学習機能について（その7）
- 5 その他
- 6 閉会

【配布資料】

議事次第

- 【資料1】 第28回ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）
- 【資料2】 見学コースについて
- 【資料3】 前回までの環境学習機能に関する市民検討会での主な議論等

【会議録】

午後7時 開会

1 開会

【事務局挨拶】

【配布資料の確認】

2 会長あいさつ

【会 長 挨拶】

3 報告事項

(1) 第28回市民検討会議事録について

【事務局説明】

会 長 : 何か気づいた点はあるか。なければ、公開手続きをお願いしたい。

(2) 第16回ふじみ衛生組合地元協議会について

【事務局説明】

(3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について

【事務局説明】

4 議題

環境学習機能について

【事務局説明】

会 長 : 見学コースの全体、ハードがこういうところにあって、実際にソフトを体験しながら動いていくことを想定した説明であった。質問、意見はあるか。

B 委員 : 事務局説明の見学コースの順路等是一个のあり方であろうと思う。私の基本的な考えは、見学者自身に学びとってもらいたいこと。この施設に来た限り、次の3つの驚きを得て帰ってもらいた

いという希望や願望がある。

1つは、ストーカ炉の焼却施設の偉大さ。計算すると、1時間に大体6トン进行处理する。また燃焼方式の違いを比較しながら、その威容に驚きを感じてもらおう。

2つ目は、ごみも大切なエネルギー源であるという啓発である。7,200kWという電気エネルギーを発生させ、4,000kWぐらいの売電もできる。具体的に電気エネルギー、熱エネルギーの用途を例示すれば、子供や見学者にわかりやすいのではないかと。

それから、市役所や近くの施設へエネルギーを供給する。これを一般家庭にすればどのぐらいの経費がかかるとか、身近なことに換算してもよいのではないかと。そういったことから地球環境のエネルギー問題に関連して、発展させて考えてもらおう。

3つ目は、多岐にわたるリサイクルの利用について、焼却灰はもちろん、残渣の利用、堆肥、セメント、レンガ、ブロック等々。

私は子供たちに、「なぜアルミ缶が鉄の缶より大事なのか」と聞くことがある。だれも答えられない。アルミ缶が高価で大事な資源なのかということを知ってもらうことが大事である。

これらのことから提言の1つ目は、1階に入ってきたときに適切なワークシートを自由に取ってもらうことである。2つ目は、コースの順路を1階からすぐ3階に行き、荷物を置き、すぐ2階を見学し、説明は後です。わくわく感を大事にすることから、先に実際に目の当たりにする。これも一つの人間の理解を深めるあり方である。そして、後で補足して説明してやる。そうすると、逆にわかりやすいという場合もある。それから、3階の廊下を渡って屋上へ行く。最後にそれぞれ関心のあることが違うので、メディアウォールなども自由に操作できる自由行動の時間を少しでもとるようにする。

以上である。

会 長 : 他に意見はあるか。

F 委員 : ごみピットの中に10日分のごみが入るとのことだが、ごみの臭いが全体に広がらないような方法があるのであれば、教えてほしい。

- 会 長 : ピットの説明をお願いしたい。
- 事務局 : 臭い対策については、まず、焼却炉が動いている場合は、臭いのあるごみピットの空気を焼却炉の燃焼用空気として使うので、基本的には臭いはほとんど出ない。しかも、ごみピットの空気を焼却炉で使うため、負圧といって外の空気よりも建物内の気圧が低くなるので、空気は外から中へ入ってくる流れになり、建物の外に臭いが流れるということは、焼却炉が動いている限りはないと考えている。
- 焼却炉が止まっている時は空気を吸えないので、その場合は脱臭装置という活性炭の層に空気を通す。今回、焼却炉が2つしかないのに煙突を3本立てる。3本のうち2本は焼却炉の煙突だが、残りの1本は焼却炉が止まっている時に、臭いを外に出すための専用の煙突である。活性炭の層に空気を通し、臭いを消した上で、さらに100メートルの煙突の上から空気を出すので、地上にはこの臭いは届かない。焼却炉が運転している時も、止まっている時も、臭気対策については万全を期していると考えている。
- F 委員 : 臭突、他にもやっているのか。
- 事務局 : 市民検討会で視察した、所沢市の東部清掃工場で採用している。東京都内ではふじみが初めてかもしれない。
- 副 会 長 : それだけのお金をかけているということである。
- 会 長 : 他に意見はあるか。
- A 委員 : 事務局説明の中にあつた、プラスチックとその他のものを分別とはどういうことなのか。容器包装に基づいてプラスチックを分別しているのか、プラスチックの出し方も含めて説明したほうがよいのではないかと思う。
- それから、電力量と書いてkWとなっている。電力量はkWhであるから、その辺をきちんと説明しておかないと、発電能力ではkWかもしれないが、発電量だったらkWhである。kWとkWhをきちんと区別しておかないといけない。
- 事務局 : プラスチックとその他のものを分別しているとは何かということであるが、プラスチックの日にプラスチックで集めているのだが、

中にプラスチックではないいろいろなものが入っている。そういったものは取り除かないと容器包装リサイクル法にのっとったリサイクルができないので、そういった異物を取り除いているということでご理解いただきたい。

会 長 : 発電量表示についてはいかがか。
事務局 : 表示板は瞬間の値を示しているので、正確に言えば、発電出力ですが、一般的に出力の大きさを量と表現しているというところで、小学生向きの説明ですので、大人の方でしたら正確に出力だと説明すればよいかと。

会 長 : 「現在の発電量」とか入れられないのか。

A 委員 : 前回、見学に行ったところでは、発電システムのところの表示パネルが現在の発電電力、58W、本日の発電電力量、453kW/hと、電力と電力量と正確に表現していた。大人の方が来て、表現が間違っていると、おかしいと指摘されると思う。

事務局 : 表現の仕方については工夫したい。

会 長 : 検討をお願いしたい。他に意見はあるか。

C 委員 : 全体のコンセプトとしては、リサイクル、リデュース、リユースという3Rがあって、三鷹市、調布市も分別と減量という両方の課題に取り組んできている。その中で燃やすものは、最終的に燃やさなければならぬものを燃やしていく。だから、1基稼働でふじみの処理場は済むのだ、というのが一つの目標かと。そういうコンセプトを立てる必要があるのではないか。

プラスチックの回収で、中にはほかのものも混ざるという問題と同時に、プラスチックの中でも汚れているとか、洗っていないというのは、現場で分別されている。それから、大きいものは粗大ごみの扱いになる。

水銀、その他重金属は、徹底的に分別する必要がある。そういうことも含めて、もう一度整理しコンセプトをつくっていく必要があるのではないか。

会 長 : 3Rを原則として掲げる。それと、これだけ大きい施設ができて、

工場運営の側面との兼ね合いが出てくる。両市民、両市も認識を持っておかないと、将来、いろいろなことが出る可能性がある。そこはすごく大事なところである。他に意見はあるか。

E 委員 : 全体の研修の時間はどのぐらいを見込んでいるのか。

会 長 : 団体の研修時間はいかがか。

事務局 : 小学生の見学は、約2時間程度だと思われる。

E 委員 : 先ほど選別の問題が出ていたが、現場で見て、聞いて、そして、わかりやすく説明すれば、1年生でも何年生でもわかると思う。

もう一つは、地域で選別の問題、リサイクルの問題など、細かいことを徹底してやっているわけであるから、それを一つの土台にし、そして、新ごみ処理施設の中でどういうものを学んでいくかということになると思う。

会 長 : ソフト、ハードも含めて、大体イメージが伝わった。他に意見はあるか。

D 委員 : 事務局の見学者コースの説明は良いと思うが、子供用と大人向けとプログラムは2つつくるべきだと思う。

もう一つ、学習の場としていろいろな研究材料として使いたいという学生のためにも、いろいろな資料も用意してあげるとよい。そのためには学校の先生とかにも入ってもらい、プログラム開発をしたほうが良いと思う。

会 長 : 1パターンだけでは無理かもしれない。少なくとも対象を2つに分けて説明があるとよいのでは。3Rのコンセプトにしても、どう伝えるかというのは難しい問題である。一般向けと小学生向けという使い分けが大事になってくる。他に意見はあるか。

A 委員 : 新ごみ処理施設ができればプラスチックを燃やし、有料化されるのではないかという話をある主婦の方が話していた。どうしてそういう話になっているのかわからないが、情報としてお伝えする。

事務局 : 現在プラスチックで収集しているものについては、今後もプラスチックで収集する。プラスチックで収集することは無料である。リサイクルできないプラスチックは、現状は、民間企業でサー

マルリサイクルをしている。同じサーマルリサイクルをするのであれば、遠くまで運ぶのは、ガソリンも使うし、環境にも負荷がかかるので、自分の施設で燃やしたほうがよい。しかも、こちらの施設のほうがより効率のいい発電機がついているわけであるから、新しい焼却施設ができたなら、現在、民間企業でサーマルリサイクルをしている分については焼却場でサーマルリサイクルをとするということである。

C 委員 : 燃やすこともリサイクルでサーマルリサイクルの一つなんだということでサーマルリサイクルという概念を入れてしまうと、何でも燃してしまったらいいとなる。リデュース、リユースとあるが、リサイクルするのはコストがかかるから燃したいと。それで熱量が出ればCO₂の削減にもつながると、最近、そういうことを言う方もいるので、それはどのように考えるのか。

産業廃棄物のことをよくわからないのだが、産業廃棄物のプラ製品はどう処理しているのか。

事務局 : 前半の部分を事務局から回答する。リサイクルより上位としてリデュースがあって、リユースがあって、それでもだめなものについてリサイクル。リサイクルは3Rのうちの3番目である。リサイクルの中にも順位づけがあり、まず、マテリアルリサイクル。マテリアルリサイクルができないのはケミカルリサイクルを。ケミカルリサイクルができないものはサーマルリサイクル。サーマルリサイクルができないということは埋め立てるしかないわけであるから、サーマルリサイクルはリサイクルの中でも最終手段である。三鷹市、調布市はプラスチックで集めたものまでサーマルリサイクルをするわけではない。これはちゃんと容器包装リサイクル法にのっとってリサイクルに出すわけである。汚れたプラスチックや、使えないプラスチックを埋め立てるのであれば、サーマルリサイクルをして熱回収をしようという考え方である。積極的にプラスチックを燃やすという考え方は三鷹市も調布市も持っていない。

副会長 : 産業廃棄物の場合、製造工場から出る廃棄物というのはプラスチ

ックならプラスチックの製造過程での裁断くずや何か、わりあい純度がそろっていて、不純物の入っていないものが多く、大部分はうまくリサイクルできている。ただ、複合的にいろいろなプラスチックを使ったり、ラミネートされたもの、商品になったものはリサイクルするのになかなか難しい面があるので、最終的には燃やさざるを得ないケースもある。

ただ、先ほど、事務局からリサイクルの順番を説明があったが、裏が白い紙の場合だと、裏はそのままメモ用紙にする。これはリユースである。そこで裏表も使ってしまったものは古紙回収などに出して、新聞紙などに使う。新聞紙へのリサイクルを何回かやっていると、もう繊維が短くなって、ちり紙にしかならない。ちり紙は一たん使ってしまったら、もうリサイクルできないので焼却せざるを得ない。焼却というのはどうにもリサイクルできない、資源化できないものを燃やすという最後の段階である。そういうリサイクルのあり方を子供たちにわかってもらうことは必要だと思う。

それから、小林委員から自分で考えるという形、私も大切だと思う。ただ、小学生が大勢一度に来るわけである。時間を考えると、説明を先にせざるを得ないかもしれない。自分で考えることをさせるためには、ソフトの面で工夫していったらどうかと感じた。

C 委員 : 家の解体など産業廃棄物が出るがどうなっているのか。

副 会 長 : 建設廃棄物に関する法令、分別を徹底するという制度ができた。今は建設廃棄物についてはほとんどがリサイクルできるようになっている。非常に驚くほどリサイクルがきちんとなされている。

コンクリートも解体した後、中の骨材とそれ以外の砂状のものを全部分けて、九十数%リサイクルされている。

会 長 : 他に意見はあるか。

B 委員 : 地球のエネルギー問題であるが、特に日本は石油の取れない国である。ほとんどの生活用品が石油からつくられていることに気づいてもらう。日本はいかに石油がなくて、それがなくなると日本は生きていけない、そのためにも3Rが大切であることを見学に来たと

きに考えてもらう。

2つ目は、説明パネルのあり方。いろいろな施設に行ったときに考えるのだが、歩きながら見るのか、とまって見るのかである。廊下に掲示するパネルは、文字が大きくて少なく、表題があれば、通過しながら大体わかるというのが要望である。

会 長 : 2つ目の文字は大きく、少なくというのは私も大賛成である。

時津委員 : 見学コースの中の団体の研修と、数人で来た場合等の個人的な見学の対応はどういうふうに考えられているのか。

それと、うちの周りを見ても、分別の不徹底が出てきている。見学コースの中に分別の徹底という説明箇所を入れてほしい。

事務局 : 2つ目の分別の徹底については意見として伺う。

個人の場合は、基本的には大研修ホールは個人の場合には使わない予定である。個人の場合は、基本的には1階で受付を済ませ、1階で地球環境など広く環境について学習する。その後、2階で新ごみ処理施設について学習。希望があれば、3階の展示物も見て学習ができるという考えである。

会 長 : いろいろ重要な意見が出された。事務局の見学コース説明は確定ではない。今日出た意見の中で取り入れられることも多いかと思うので、もう1回バージョンアップしたものを作ってほしい。

今日の議論は終了としたい。

5 確認事項

【次回は、平成24年1月19日（木）の午後7時に開催】

6 閉会

午後9時00分散会